

令和8年度入学式が挙行されました

令和8年4月7日、あいにくの雨模様となりましたが、本校において令和8年度入学式を挙行いたしました。しっとりとした春の空気の中、桜坂の桜もほころび始め、新入生の新たな門出を静かに見守る一日となりました。

当日は、同窓会長をはじめとすご来賓の皆様、ならびに多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、厳粛かつ温かな雰囲気のもと式が執り行われました。今年度は、全日制課程184名、定時制課程8名、計192名の新入生が入学を許可され、本校の新たな一員として第一歩を踏み出しました。

式辞において校長は、新入生一人ひとりがこれまでの努力によって本日を迎えたことに触れ、その歩みを支えてきた家族や周囲の人々への感謝の気持ちを大切にしてほしいと述べました。また、本校が創立125年目を迎える伝統校であることに言及し、校標である「右文尚武」「質実剛健」「玲瓏同氣」の三つの理念のもと、勉学と部活動の両立、誠実でたくましい人間性の育成、仲間と切磋琢磨しながら人格を高め合う姿勢を大切にしてほしいと期待を寄せました。



さらに、幕末の思想家・吉田松陰の言葉「志を立てて以て万事の源と為す」を引用し、高い志を持つことの重要性を説くとともに、ノーベル文学賞作家ジョン・スタインベックの言葉を紹介し、困難や挫折を乗り越える中で人は成長していくこと、自らの可能性を信じて歩み続けてほしいと新入生を励ました。

続いて、ご来賓を代表して同窓会長より祝辞が述べられました。本校の校章や校歌、同窓会の歴史に触れながら、先輩方が主体的に築き上げてきた伝統の重みが語られました。また、高校生活の三年間について、「人生において極めて貴重な時間である」とし、その時間をどのように過ごすかが将来に大きく影響することを示されました。新入生に対しては、歴史と伝統を受け継ぐ一員としての自覚を持ち、仲間とともに学び、成長し続けてほしいとの温かい激励の言葉が贈られました。

式の後半では、新入生代表が宣誓を行いました。これまでの学びの中で得た経験や支えてくれた人々への感謝の気持ちに触れながら、本校の校標を胸に刻み、仲間と支え合いながら努力を重ね、人として成長していく決意が力強く述べられました。その言葉には、新たな高校生活への期待と覚悟が込められており、その決意に、多くの人が心を動かされました。



高校生活の三年間は、長い人生の中でもとりわけ大きな成長を遂げる貴重な時間です。新入生の皆さんが、本校での学びと経験を通して自らの可能性を広げ、それぞれの夢や目標に向かって充実した日々を送ることを、教職員一同心より願っております。

